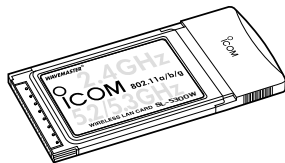
ICOM

取扱説明書

無線LANカード

SL-5300W

[IEEE802.11a(J52/W52/W53)/b/g]規格対応

ドライバーを最初にインストールしてから、
SL-5300Wを取り付けてください。

Icom Inc.

はじめに

　このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
　本製品は、5.2/5.3GHz帯[IEEE802.11a(J52/W52/W53)]規格と2.4GHz帯[IEEE802.11b/g]規格に対応する無線LANカードです。
　ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

【パソコンが操作不能になったときは】
ご使用になるパソコンによっては、本製品を取り付けたときに操作不能となることがあります。
本製品のドライバーを新規インストール中、またはインストール後に操作不能となったときは、パソコンから本製品を取りはずしてください。
取りはずすことで、操作できるようになります。
そのあと、ご使用中のアプリケーションを終了して、パソコンの電源を切り、再び本製品を装着してから電源を入れなおしてください。
ドライバーのインストールが完了していない場合は、本書の手順(☞2章)にしたがってインストールしてください。

電波法により、屋外で[IEEE802.11a]規格(5GHz帯)の無線LANを使用することは禁じられています。

はじめに

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、ICOM は、アイコム株式会社の登録商標です。
WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。
Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。
Adobe、Adobe Readerは、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の商標です。
AtherosおよびSuper AG、Atheros XR、Total 802.11のロゴは、Atheros Communications, Inc.の商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

ユーザー登録について

本製品のユーザー登録は、アイコムホームページで行っています。
インターネットから、「http://www.icom.co.jp/」にアクセスしていただき、ユーザー登録用フォームにしたがって必要事項をご記入ください。
ご登録いただけない場合、サポートサービスをご提供できませんのでご注意ください。

はじめに

本製品の概要について

◎5.2/5.3GHz帯[IEEE802.11a(J52/W52/W53)]規格、または2.4GHz帯[IEEE802.11g]規格の無線LANと最大54Mbpsの速度で通信できます。
※2.4GHz帯[IEEE802.11b]規格の無線LAN環境では、最大11Mbpsの速度で通信できます。

◎[IEEE802.11a(J52/W52/W53)]/[IEEE802.11g]規格は、地上波デジタルテレビジョン放送と同じ変調(OFDM)方式を採用していますので、マルチパスによる影響を受けにくく、高速で安定性に優れています。

◎従来の暗号化方式(WEP RC4)に加え、さらに強力な「WPA-PSK」を使用できます。

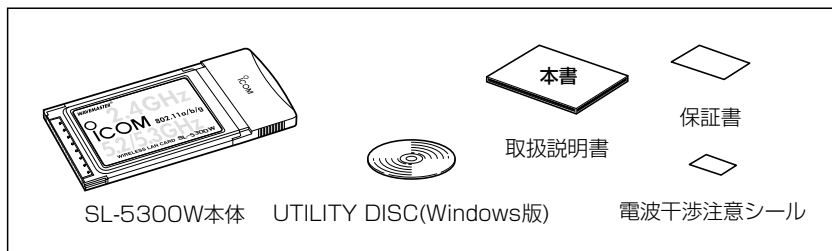
◎IEEE802.1X、WPA方式のRADIUS認証を使用できます。

◎技術基準適合証明を取得していますので、無線局の免許は不要です。

◎Atheros製[IEEE802.11a/b/g]規格対応チップセットを搭載。

◎Atheros Communications社の「Super AG(無線LAN高速化技術)」と「XR(無線伝送可能領域を拡大する技術)」を使用した通信に対応しています。

標準構成品

本製品には、次のものが同梱されています。
本製品をご使用になる前に、すべて揃っていることを確認してください。
※動作環境については、次ページをご覧ください。

【お知らせ】
無線LAN製品をご使用になるときは、下記のアドレスにアクセスしていただき、「無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティーに関するご注意」をご覧ください。
アドレス：http://wavemaster.icom.jp/html/security/security_wirelesslan.html

はじめに

動作環境について

■パソコンは、PC/AT互換機(DOS/V)に対応します。
■PCカードスロット(CardBus TypeⅡ)を装備するパソコンに対応します。
■本製品のドライバーと設定ユーティリティーは、次の日本語OSに対応します。

- Microsoft® Windows® XP Professional
- Microsoft® Windows® XP Home Edition
- Microsoft® Windows® 2000 Professiona
- Microsoft® Windows® Millennium Edition
- Microsoft® Windows® 98 Second Edition

※ Microsoft® Windows® 98、Microsoft® Windows® XP Professional x64 Edition には対応していません。

暗号化方式の設定について

設定ユーティリティー(☞3章)とWindows XP標準のワイヤレスネットワーク接続(☞4-1章、5-1章)とでは、設定できる暗号化方式が異なりますのでご注意ください。(☞P78)

本書の表記について

本書では、次の表記規則にしたがって記述しています。

「　」表記：オペレーティングシステム(OS)、ユーティリティー、メニュー、ウィンドウ(画面)の名称を(「　」)で囲んで表記します。

[　] 表記：タブ名、アイコン名、テキストボックス名、チェックボックス名などを([　])で囲んで表記します。

〈　〉表記：ダイアログボックスのコマンドボタンなどの名称を(〈　〉)で囲んで表記します。

※Microsoft® Windows® XP Professional、Microsoft® Windows® XP Home Editionは、Windows XPと表記します。
Microsoft® Windows® 2000 Professionalは、Windows 2000と表記します。
Microsoft® Windows® Millennium Editionは、Windows Meと表記します。
Microsoft® Windows® 98 Second Editionは、Windows 98 SEと表記します。

※本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。
また、紙面の都合により、実際に表示される画面と比率を変更して掲載しています。

はじめに

本製品が対応する無線LAN規格について

本製品が対応する無線LAN規格は、以下のとおりです。

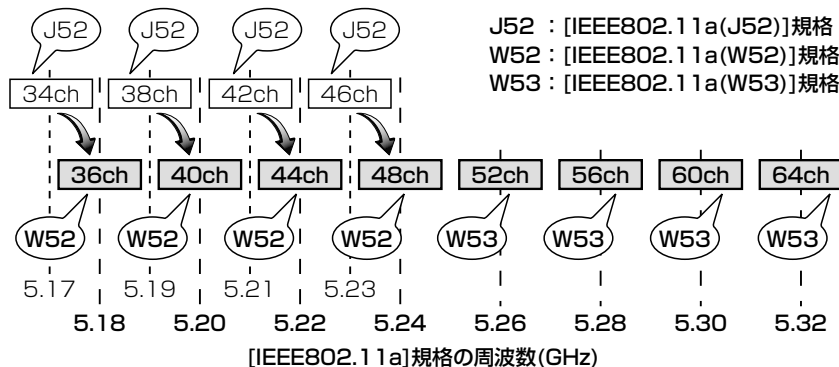
◎[IEEE802.11a(J52/W52/W53)]：54Mbps(5.2GHz/5.3GHz帯)
◎[IEEE802.11g]　　　　　　　：54Mbps(2.4GHz帯)
◎[IEEE802.11b]　　　　　　　：11Mbps(2.4GHz帯)
※[IEEE802.11b/g]規格と[IEEE802.11a(J52/W52/W53)]規格の同時通信はできません。
※[IEEE802.11g]規格は、[IEEE802.11b]規格と互換性があります。
※[IEEE802.11]規格(14ch)には対応していません。
※[IEEE802.11a]規格で「アドホック」モードを使用できるのは、[IEEE802.11a(W52)]規格だけです。

■ [IEEE802.11a(J52/W52/W53)]規格の無線通信チャンネルについて

右に記載の記号は、従来の[IEEE802.11a(J52)]規格のほかに、新しく[IEEE802.11a(W52/W53)]規格で採用された無線通信チャンネルに対応した製品を意味します。
※右の記号は、本製品のシリアルシールにも記載されています。

IEEE802.11b/g		
IEEE802.11a		
J52	W52	W53

[IEEE802.11a(J52/W52/W53)]規格の無線LANついて

新しい5.2GHz帯の無線通信チャンネル4個(W52)は、日本国内で使用されている無線通信チャンネル4個(J52)の中心周波数から10MHz高い周波数に移行され、さらに新しく5.3GHz帯の無線通信チャンネル4個(W53)が追加されました。
下記の図で示すように、今まで日本国内で使用されている[IEEE802.11a(J52)]規格の無線通信チャンネル(4個)と合わせて、合計12個に対応しています。

はじめに

無線LANの電波法についてのご注意

●電波法により、屋外で[IEEE802.11a]規格(5GHz帯)の無線LANを使用することは禁じられています。

●本製品に使用している無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、特定無線設備の認証を受けています。
したがって、本製品の使用に際しては、無線局の免許は必要ありません。

●本製品に使用している無線装置は、電波法に基づく認証を受けていますので、本製品の分解や改造をしないでください。

●本製品を使用できるのは、日本国内に限られています。
本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造しています。
したがって、日本国外で使用された場合、本製品およびその他の機器を壊すおそれがあります。
また、その国の法令に抵触する場合があるので、使用できません。

●心臓ペースメーカーを使用している人の近くで、本製品をご使用にならないでください。
心臓ペースメーカーに電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。

●医療機器の近くで本製品を使用しないでください。
医療機器に電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。

●電子レンジの近くで本製品を使用しないでください。
電子レンジによって本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

2.4GHz無線LANの電波干渉についてのご注意

2.4GHz帯の無線LANで通信するときは、次のことがらに注意してください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を必要とする無線局)が運用されています。

○この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
○万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための対処等についてご相談ください。
○その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：アイコム株式会社
サポートセンター　06−6792−4949
(平日　9:00〜12:00、13:00〜17:00)

はじめに

Bluetooth™搭載機器との電波干渉について

本製品とBluetooth™搭載機器は、2.4GHz帯を使用していますので、[IEEE802.11b/g]規格で通信する本製品をBluetooth™搭載機の近くで使用すると、混信して通信速度の低下や接続が不安定になることがあります。
電波干渉するときは、Bluetooth™搭載機器の最大通信距離を超える環境で本製品をご使用いただき、最大通信距離以内の環境では、Bluetooth™搭載機器のご使用をお控えください。

2.4GHz無線LAN 2.4OF・DS4 表記の意味について

「2.4」　：2.4GHz帯を使用する無線設備を示す。
「OF・DS」：変調方式を示す。
「4」　：想定される干渉距離が40m以下であることを示す。
「━━━」　：全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能なことを示す。

取り扱い上のご注意

◎パソコンおよび本製品以外の周辺機器の取り扱いは、それぞれに付属する取扱説明書に記載する内容にしたがってください。
◎本製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。
このようなときは、本製品が装着された機器を、妨害を受けている機器からできるだけはなして設置してください。
◎本製品のドライバーおよび設定ユーティリティーは、本製品以外の機器で使用しないでください。
◎本製品の改変や分解したことによる障害、および故障、誤動作、不具合、破損、データの消失、あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
◎本書の著作権およびハードウェア、ソフトウェアについての知的財産権は、すべてアイコム株式会社に帰属します。
◎本書の内容の一部または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。
◎本書の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

はじめに

CD(UTILITY DISC)について

本製品のドライバーと設定ユーティリティーが収録されています。
本製品に付属のCDは、PC/AT互換機でご使用ください。

ご使用になるPC/AT互換機のCDドライブに挿入すると、パソコンのAuto Run機能により、メニュー画面を自動的に表示します。

※メニュー画面が表示されないときは、本製品のCDに収録された「AutoRun.exe」をダブルクリックしてください。
※メニュー画面から本製品のインストールをする前に、ほかのアプリケーションが起動していないことを確認してください。
※「UTILITY DISC」をCDドライブに挿入直後に、[Shift]キーを押し続けると、Auto Run機能を取り消しできます。

〈ご参考に〉
CD収録の補足説明書には、本書で説明していない設定項目など詳細を説明しています。
※ご覧になるときは、Acrobat® Reader® 4.0以上をご用意ください。

ご使用までの流れ

本製品を無線ネットワークに接続するまでの設定や操作の手順です。
本書をご覧いただく場合、次のステップ(Step)にしたがって導入してください。
各ステップの右端に記載する数字は、本書の参照ページです。
※詳細な設定については、CDに収録の補足説明書(PDF形式)をご覧ください。

もくじ

もくじ

もくじ

第4章 アクセスポイントと無線通信する ―――――――― 30

もくじ

もくじ

第6章　ご参考に(つづき)

安全にお使いいただくために、
ご使用の前に、必ずお読みください。

▶ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
▶次の『⚠**危険**』『⚠**警告**』『⚠**注意**』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
▶お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

⚠警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎製品の分解や改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎本製品のコネクター部分に線材のような金属物を入れたり、差し込んだりしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

安全上のご注意

⚠警告 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎本製品を使用中は、ぬれた手で本製品に触れないでください。
感電の原因になります。

◎水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎本製品の取り付けや取りはずし、保管するときは、赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で行ってください。
けが、感電の原因になります。

◎指定以外の付属品および別売品は、使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

◎万一、煙が出ている、変なにおいがする、変な音がするなどの異常がある場合は、使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに本製品を取りはずしてください。
煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社営業所カスタマーサービス担当に連絡してください。

⚠注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

◎本製品をパソコンに装着するときは、本製品の裏と表を間違えないように十分注意してください。
故障の原因になることがあります。

◎OSの起動中は、本製品を取りはずしたり、取り付けたりしないでください。
故障の原因になることがあります。

◎テレビやラジオの近くで使用しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

◎強い磁界や静電気の発生する場所、温度、湿度がパソコンの取扱説明書に定めた使用環境を超える、または結露するところでは使用しないでください。
故障の原因になることがあります。

◎湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所では使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になることがあります。

◎本製品の通信中に、本製品を取りはずさないでください。
故障や、データの消失または破損の原因になることがあります。

◎本製品の上に乗ったり、重い物を載せたり、挟んだりしないでください。
故障の原因になることがあります。

◎本製品を落としたり、強い衝撃を与えたり、無理にねじったりしないでください。
けが、故障の原因になることがあります。

安全上のご注意

⚠注意	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

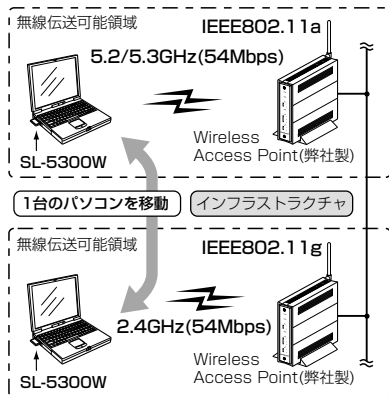
◎本製品を取り付けたパソコンをぐらついた台の上や、傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因になることがあります。

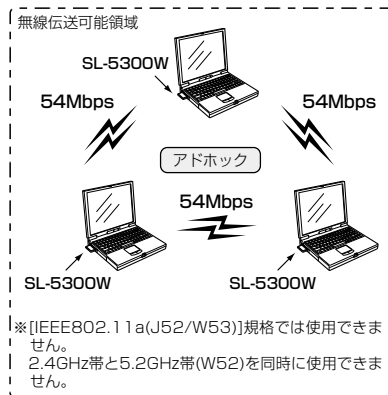
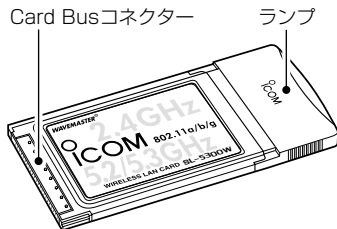
◎長時間、本製品を使用しないときは、安全のためパソコンから本製品を取りはずしてください。
発熱、発火、故障の原因になることがあります。

◎清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
ケースが変質したり、塗料がはげたりする原因になることがあります。
普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

1-1.通信形態を確認する

本製品は、ご使用の環境によって、次のどちらかの**「無線通信モード」**が選択できます。
※出荷時は、**「インフラストラクチャ」**モードに設定されています。

■アクセスポイントと無線通信する「インフラストラクチャ」モード(☞4章)

■パソコン同士が無線で直接通信する「アドホック」モード(☞5章)

※[IEEE802.11a(J52/W53)]規格では使用できません。
2.4GHz帯と5.2GHz帯(W52)を同時に使用できません。

1-2.各部の名称と機能

「Plug and Play」に対応していますので、パソコンのOSが起動した状態で本製品を装着できます。

【CardBusコネクター】
パソコンに装備されたPCカードスロット(CardBus typeⅡ)に接続する端子です。
※金属片やゴミがコネクターに付着していないことを確認してから装着してください。

■ ランプと無線LANカードの状態

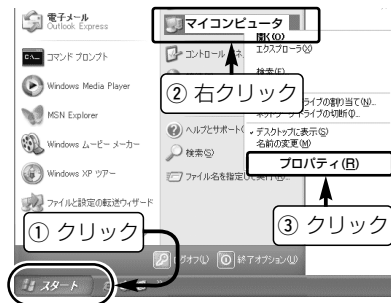
ランプ	無線LANカードの状態
同時に高速で点滅	送受信しているデータ量が多いとき
同時にゆっくり点滅	送受信しているデータ量が少ないとき ※設定内容によっては、データ量が多いときでもこの状態になることがあります。
交互にゆっくり点滅	無線伝送可能なエリアをはずれた場合など、通信できる無線LAN機器を探しているとき
消灯	本製品に電源が供給されていないとき

1-3.PCカードドライバーの状態を確認する

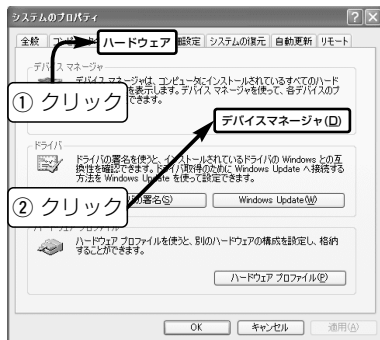
本製品のドライバーをインストールする前に、32ビットPCカードドライバーの状態を確認してください。(※手順は、Windows XPを例に説明しています。)

■確認の手順

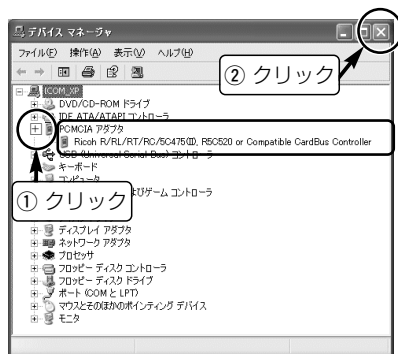
1. マウスを〈スタート〉→[マイコンピュータ](右クリック)→「プロパティ(R)」の順にクリックします。

- 「システムのプロパティ」を表示します。

2. [ハードウェア]タブ→〈デバイス マネージャ(D)〉の順にクリックします。

- 「デバイス マネージャ」を表示します。

1

1-3.PCカードドライバーの状態を確認する

■確認の手順(つづき)

3.「PCMCIA アダプタ」の ⊞をクリックして表示されるデバイスのアイコンに「!」や「×」マークが付いていないことを確認します。

4.「!」や「×」マークが付いていなければ、「デバイス マネージャ」の〈×〉をクリックして、画面を閉じます。

※「PCMCIA アダプタ」の中に表示されるデバイス名に「!」や「×」マークが付いている場合は、ご使用のパソコンに付属する取扱説明書などを参考にPCカードドライバーを再インストールしてください。
このままの状態でご使用になっても、本製品を使用できません。

5.ドライバーの新規インストール(☞2章)に進みます。

〈ご参考に〉

左の画面で、「PCMCIA アダプタ」の中に表示されるデバイス名は、ご使用のパソコンによって異なります。

1-4.使用する場所について

下記の内容について注意しないと、通信範囲や速度に影響します。

◎次のことを考慮して、ご使用ください。
- 本製品の上に物を置かないでください。
- 電波は壁やガラスを通過しますが、金属は通過しません。
  コンクリートの壁でも、金属補強材が中に埋め込まれていて、電波信号を遮断するものがあります。
- 通信範囲はオープンスペースだと最も広くなりますが、倉庫の中のように大きな金属製の壁があると、電波を反射することがあります。
- 床にはふつう、鋼製の梁がはいっており、金属製防火材が埋め込まれていることもあります。
  そのため多くの場合、通信相手と階が異なるときは、通信できません。

◎振動や傾きがなく、落下の危険がない安定した場所でご使用ください。

◎本製品から通信相手を見通せるような場所でご使用になることをおすすめします。

◎「インフラストラクチャ」モードでご使用になるとき、無線端末の収容台数は、弊社製無線アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。

◎「アドホック」モードでご使用になるとき、同じグループの接続台数は、10台以下にすることをおすすめします。

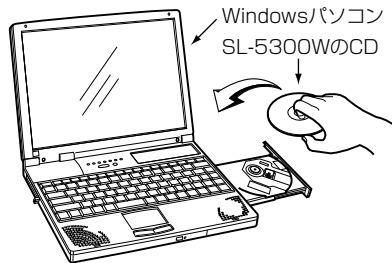
◎本製品の最大伝送距離は、通信速度や無線LAN規格によって異なります。
詳しくは、定格(☞6-8章)をご確認ください。

2 ドライバーの新規インストール

2-1.Windows XPの場合

※本製品を使って通信するすべてのパソコンにインストールしてください。

■インストールの手順

1.付属のCDをセットする

※パソコンは、**管理者権限でログオン**してください。

2.メニュー画面が表示されます。

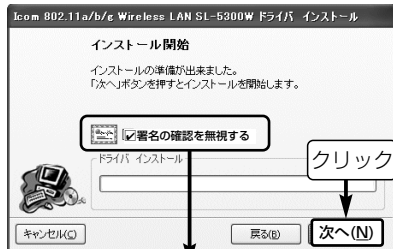
※表示しないときは、CDに収録された「AutoRun.exe」をダブルクリックします。

■再インストールするときは、インストール手順1.～3.の操作をすると表示されるアンインストールウィザードにしたがって操作してください。
※再インストールのときは、PCカードスロットから本製品を取りはずしてください。

■インストールの手順(つづき)

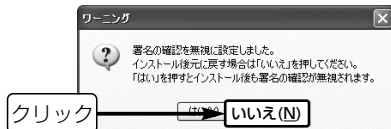
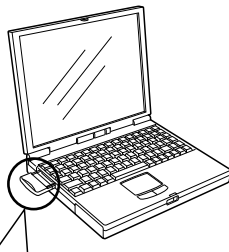
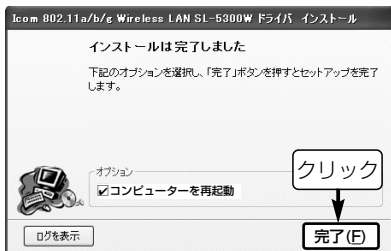
3.〈次へ(N)>〉をクリックします。

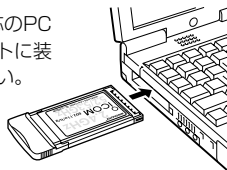
●インストールを開始します。

4.〈次へ(N)〉をクリックします。

[ドライバの署名]確認が表示されている場合でも、そのまま〈次へ(N)〉をクリックしてください。

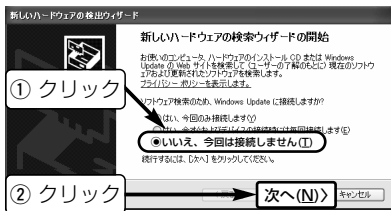
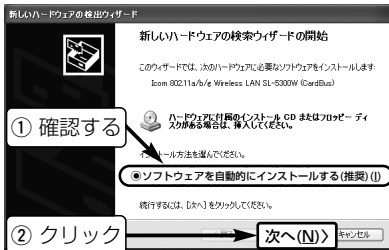
2

2-1.Windows XPの場合(■ インストールの手順)つづき

5.〈いいえ(N)〉をクリックします。

6.〈完了(F)〉をクリックします。

7.SL-5300Wを装着します。

■インストールの手順(つづき)

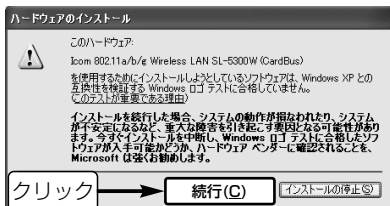
8.SL-5300Wの装着を認識すると、次の内容を表示します。

9.「いいえ、今回は接続しません(T)」のラジオボタン→〈次へ(N) >〉の順にクリックします。

10.インストール方法を設定します。

〈ご参考に〉
手順8.で画面を表示しないときは、「PCカードドライバーの状態を確認する」(☞1-3章)を確認してください。

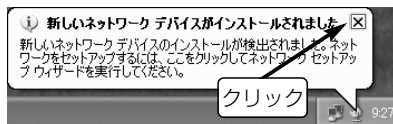
2

2-1.Windows XPの場合(■インストールの手順)つづき

11.〈続行(C)〉をクリックします。

※表示されない場合は、次の操作に進みます。

12.〈完了〉をクリックします。

● インストールは完了です。

13.画面上で、☒をクリックします。

※Windows XPのネットワークセットアップウィザードの実行画面が表示されたときは、キャンセルしてください。

14.設定ユーティリティーの新規インストール(☞3-1章)に進みます。

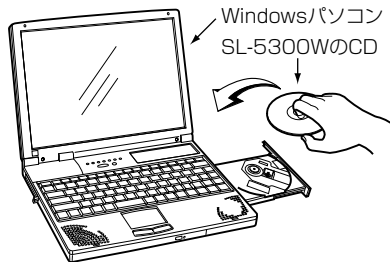
〈ご参考に〉

SL-5300Wのドライバーをインストールしたパソコンは、次回使用時から本製品をそのパソコンに装着するだけで使用できます。

2-2.Windows Me/2000の場合

※本製品を使って通信するすべてのパソコンにインストールしてください。

■インストールの手順

1.付属のCDをセットする

※Windows 2000をご使用の場合は、**管理者権限でログオン**してください。

2.メニュー画面が表示されます。

※表示しないときは、CDに収録された「AutoRun.exe」をダブルクリックします。

■**再インストールするときは、**インストール手順1.~3.の操作をすると表示されるアンインストールウィザードにしたがって操作してください。
※再インストールのときは、PCカードスロットから本製品を取りはずしてください。

2-2.Windows Me/2000の場合(■ インストールの手順)つづき

3.インストールを開始します。

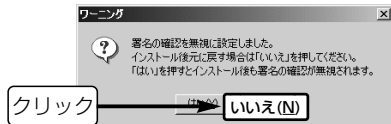
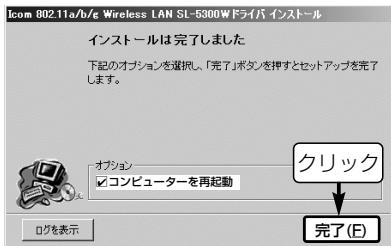
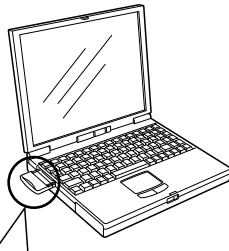
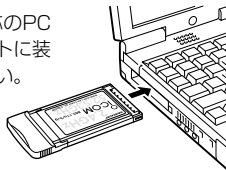
4.〈次へ(N)〉をクリックします。

●インストールを開始します。

Windows 2000の場合、[ドライバの署名]確認が表示されている場合でも、そのまま〈次へ(N)〉をクリックしてください。

※Windows Meのかたは、手順6.に進みます。

■インストールの手順(つづき)

5.Windows 2000のかたは、〈いいえ(N)〉をクリックします。

6.〈完了(F)〉をクリックします。

7.SL-5300Wを装着します。

2-2.Windows Me/2000の場合(■インストールの手順)つづき

8.SL-5300Wの装着を認識すると、次の内容を表示します。

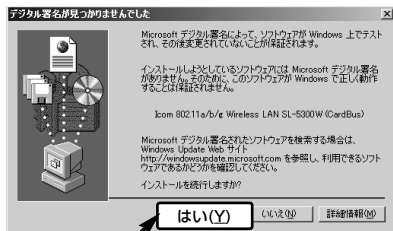
● インストールは完了です。

〈ご参考に〉

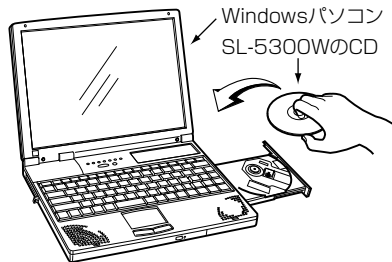
◎手順8.で画面を表示しないときは、「PCカードドライバーの状態を確認する」(☞1-3章)を確認してください。

◎SL-5300Wのドライバーをインストールしたパソコンは、次回使用時から本製品をそのパソコンに装着するだけで使用できます。

9.Windows 2000のかたは、〈はい(Y)〉をクリックします。

※表示されない場合でもインストールは完了しています。

10.設定ユーティリティーの新規インストール(☞3-1章)に進みます。

2-3.Windows 98 SEの場合

※本製品を使って通信するすべてのパソコンにインストールしてください。

■インストールの手順

1.付属のCDをセットする

2.メニュー画面が表示されます。

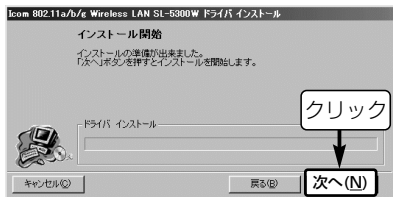
※表示しないときは、CDに収録された「AutoRun.exe」をダブルクリックします。

■再インストールするときは、インストール手順1.～3.の操作をすると表示されるアンインストールウィザードにしたがって操作してください。
※再インストールのときは、PCカードスロットから本製品を取りはずしてください。

2-3.Windows 98 SEの場合(■ インストールの手順)つづき

3.インストールを開始します。

4.〈次へ(N)〉をクリックします。

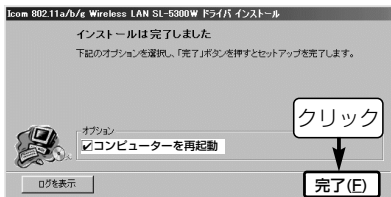
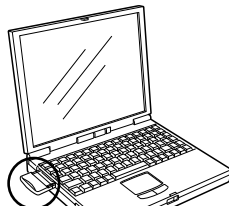
● インストールを開始します。

5.Windows 98 Second Edition のCD-ROMと入れ替えます。

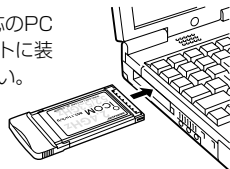
※手順5.の画面が表示されないときは、手順7.に進みます。

6.Win98フォルダーを指定します。

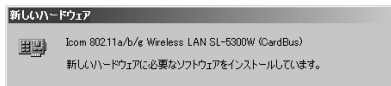
指定のしかた☞次ページ

■インストールの手順(つづき)

7.〈完了(F)〉をクリックします。

〈Win98フォルダーの指定について〉

CDの起動ドライブ名[D:](例)は、お使いのパソコンによって異なることがあります。
手順6.の画面が表示されたときは、フォルダー名「Win98」をドライブ名[D:](例)に続けて、[D:¥Win98]と指定してください。

8.SL-5300Wを装着します。

2-3.Windows 98 SEの場合(■ インストールの手順)つづき

9.SL-5300Wの装着を認識すると、次の内容を表示します。

※画面を表示しないときは、「PCカードドライバーの状態を確認する」(☞1-3章)を確認してください。

10.付属のCDと入れ替えます。

※手順5.の画面が表示されなかったかたは、CDを入れ替えずに、〈OK〉をクリックします。
※手順10.の画面が表示されないときは、手順15.(☞P20)に進みます。

11.付属のCD収録されたWin98フォルダーを指定します。

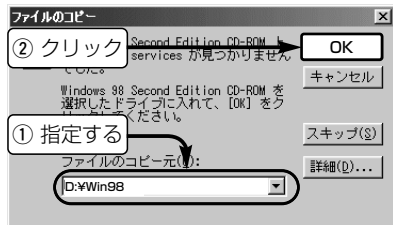
〈Win98フォルダーの指定について〉

CDの起動ドライブ名[D:](例)は、お使いのパソコンによって異なることがあります。
手順11.の画面が表示されたときは、フォルダー名「Driver¥Win98」をドライブ名[D:](例)に続けて、[D:¥Driver¥Win98]と指定してください。

■インストールの手順(つづき)

12.Windows 98 Second Edition のCD-ROMと入れ替えます。

※お使いのパソコンで手順11.の画面が表示されるかどうかは、環境によって異なります。
手順11.の操作でSL5300Wx.sysのファイルを見つけると、手順12.の画面を表示します。

13.Win98フォルダーを指定します。

14.パソコンからCDを取り出します。

15.パソコンを再起動すると、インストールは完了です。

※再起動後、「ネットワークのパスワード入力」画面が表示されたときは、[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]をテキストボックスに入力してから、〈OK〉をクリックします。

2

2-3.Windows 98 SEの場合(■ インストールの手順)つづき

16.設定ユーティリティーの新規インストール(☞3-1章)に進みます。

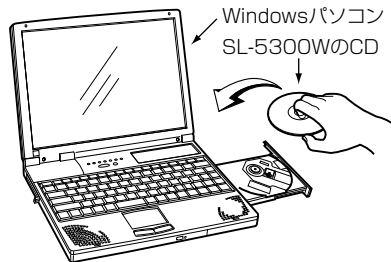
〈ご参考に〉

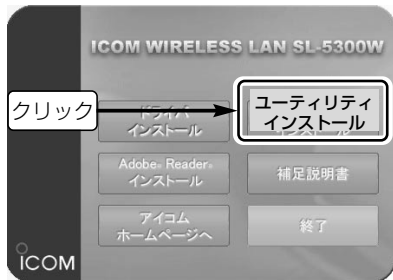
SL-5300Wのドライバーをインストールしたパソコンは、次回使用時から本製品をそのパソコンに装着するだけで使用できます。

3-1.設定ユーティリティーの新規インストール

無線通信モード(☞1-1章)や暗号化(WEP RC4、OCB AES)を設定するソフトウェアです。
※本製品を使って通信するすべてのパソコンにインストールしてください。

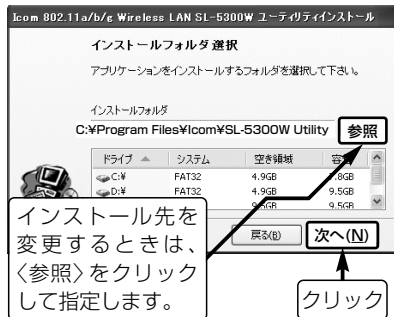
■インストールの手順

1.付属のCDをセットする

※Windows XP、Windows 2000の場合は、
管理者権限でログオンしてください。

2.メニュー画面が表示されます。

■**再インストールするときは、**インストール手順1.〜3.の操作をすると表示されるアンインストールウィザードにしたがって操作してください。
※設定ユーティリティーを起動しているときは、終了後に再インストールしてください。

3-1.設定ユーティリティーの新規インストール
■インストールの手順(つづき)

3.インストールを開始します。

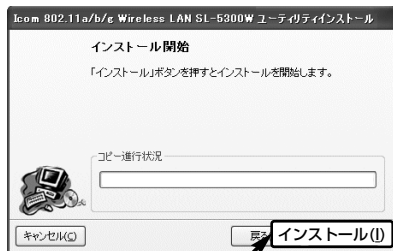
4.インストール先のフォルダーを選択します。

画面に表示されたフォルダー(C:¥Program Files¥Icom¥SL-5300W Utility)を変更しない場合は、そのまま〈次へ(N)〉をクリックします。

■インストールの手順(つづき)

5.フォルダーを作成します。

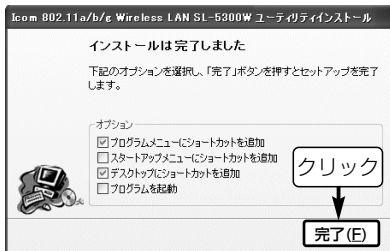
手順4.で指定した先(C:¥Program Files¥Icom¥SL-5300W Utility)に[Icom]フォルダーを自動作成することを許可する場合は、〈OK〉をクリックします。

6.〈インストール(I)〉をクリックします。

●インストールを開始します。

3-1.設定ユーティリティーの新規インストール

■インストールの手順(つづき)

7.〈完了(F)〉をクリックします。

● インストールは完了です。

■Windows XPでご使用のかたへ

(2006年10月現在)

「WEP(RC4)」以外の暗号化方式を設定するときは、下記の制限があります。

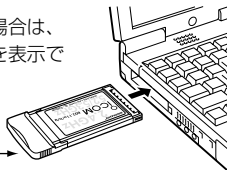
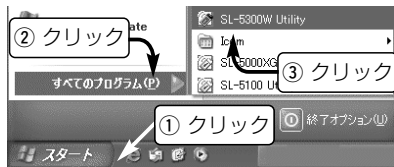
◎設定ユーティリティーは、WPA認証方式の暗号化(TKIP、AES)の設定や接続に対応していません。
Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続(以後、ワイヤレスネットワーク接続と表記)をご使用ください。
(☞4-1章、5-1章)

◎ワイヤレスネットワーク接続は、「OCB AES」暗号化方式を設定できません。
設定ユーティリティーをご使用ください。
設定ユーティリティーを本製品の設定に使用するときは、「設定ユーティリティーをWindows XPで使用するには」(☞3-3章)で設定を変更してください。

3-2.起動と終了のしかた

インストール(☞3-1章)された設定ユーティリティーの起動と終了のしかたを説明します。

■ 起動のしかた

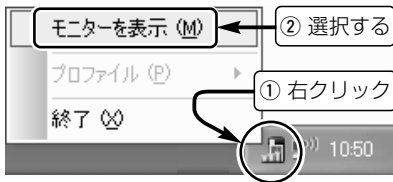
1.SL-5300Wを装着します。

2.プログラムメニューから[SL-5300W Utility]を選択します。

3.アイコンの表示を確認します。

※アイコンの意味については、本書27ページをご覧ください。

3

3-2.起動と終了のしかた

■起動のしかた(つづき)

4.モニター画面を表示します。

〈ご参考に〉

◎右クリックすると表示されるメニューに「プロファイル(P)」が表示されていない場合は、設定内容をプロファイルに保存していないか、「設定ユーティリティーをWindows XPで使用するには」(☞3-3章)の設定を変更していない場合です。

◎「モニターを表示(M)」を選択できないときは、設定ユーティリティーを一度終了したあと、SL-5300Wをパソコンに取り付けてから、起動(☞3-2章)しなおしてください。

■終了のしかた

※カーソルを表示されたアイコンの上に移動して、右クリックすると表示されるメニューから「終了(X)」を選択します。

3-2.起動と終了のしかた(つづき)

■ タスクバーに表示されるアイコンの意味

	通信中	無線ネットワークに正常に接続された状態 ※電波強度を4段階で表示し、「アドホック」のときは、電波強度は「4」のままで変化しません。
	スキャン中	無線通信モードが「インフラストラクチャ」のとき表示されます。 本製品と接続するパソコンが、通信できる無線アクセスポイントの無線伝送可能領域をはずれた状態か、無線アクセスポイントを探している状態
	アダプタが見つかりません	本製品がパソコンに装着されていない、または本製品の接続を認識していない状態
	アダプタは正しく動作していません	本製品が接続されているが、本製品のドライバーが正しくインストールされないなどで装着を認識しない状態

3-3.設定ユーティリティーをWindows XPで使用するには

Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続(☞4-1章)を使用しないときは、下記の手順で設定を変更できます。

※無線LAN機器とWPA認証方式の暗号化(TKIP、AES)で通信するときは、ワイヤレスネットワーク接続を使用して設定してください。

■設定変更の手順

1.モニター画面を表示します。

「モニターを表示(M)」を選択できないときは、設定ユーティリティーを一度終了したあと、SL-5300Wをパソコンに取り付けてから、起動(☞3-2章)しなおしてください。

2.タブの数を確認します。

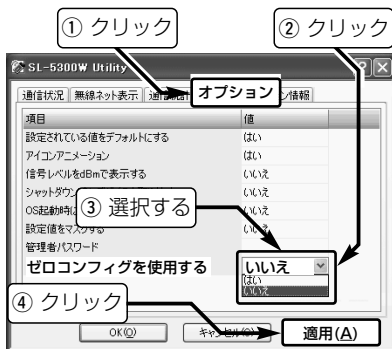
※タブが5個表示されている場合は、手順3.～手順7.の操作で設定を変更してください。

■設定変更の手順(つづき)

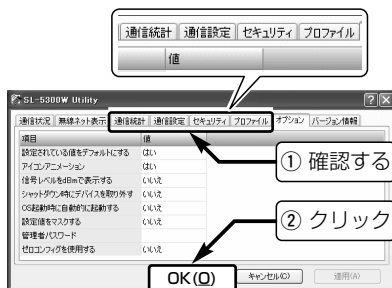
3.[オプション]タブをクリックします。

4.[ゼロコンフィグを使用する]項目から、「いいえ」を選択します。

5.〈適用(A)〉をクリックします。

※〈OK〉でも設定を反映できます。

6.本製品の設定に使用するタブが表示されます。

7.〈OK〉をクリックします。

※下記の状態では、ワイヤレスネットワーク接続(☞4-1章/5-1章)を使用できません。

3

4-1.ワイヤレスネットワーク接続を使用する

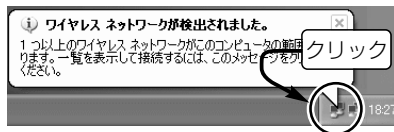
Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続(以後、ワイヤレスネットワーク接続と表記)を使用して、無線アクセスポイントと通信する手順です。

※この章では、Windows XP(Service Pack2)を例に説明しています。

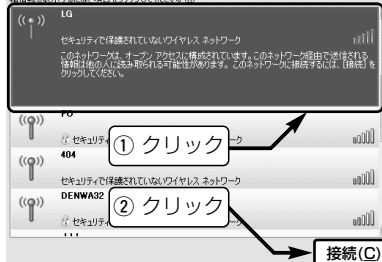
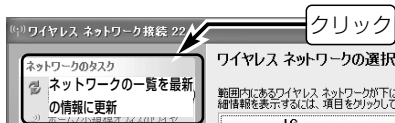
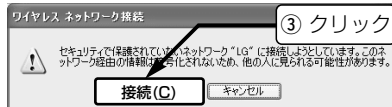
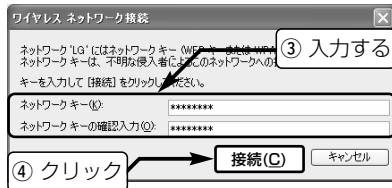
■ **接続の手順**

1.SL-5300Wを装着します。

本製品のドライバーがインストール(☞2章)されたパソコンに装着します。

2.[ネットワーク]アイコンをクリックします。

※無線LANの電波が検出できない環境では、上記のメッセージは表示されず、「×」マークを[ネットワーク]アイコンに表示します。状況によっては、しばらくしてから無線LANが検出される場合があります。

■ 接続の手順(つづき)

3.無線アクセスポイントを選択します。

〈ご参考に：最新の情報に更新するには〉

【暗号化されていないネットワークの場合】

【暗号鍵(キー)が必要な場合】

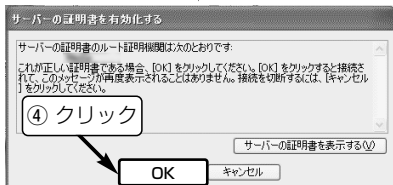
③ 暗号鍵(キー)を入力します。
　※暗号化方式は、自動判別されます。
④〈接続(C)〉をクリックします。

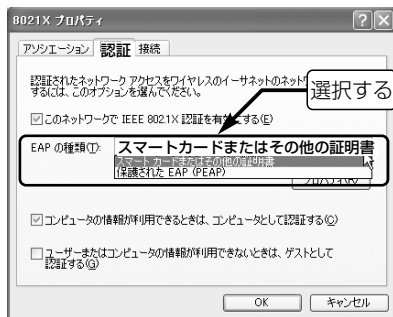
【RADIUS認証が必要な場合】☞次ページへ

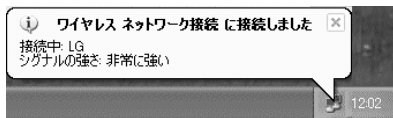
4-1.ワイヤレスネットワーク接続を使用する

■接続の手順「3.無線アクセスポイントを選択します。」(つづき)

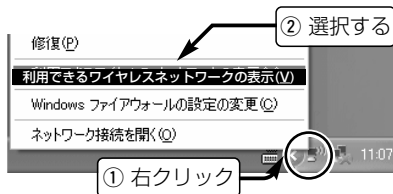
【RADIUS認証が必要な場合】

※EAP-TLS方式は、「クライアント証明書」がインストールされたパソコンが必要です。
※EAP-PEAP方式は、「ユーザー名」と「パスワード」が必要です。
※「クライアント証明書」、「ユーザー名」や「パスワード」については、認証サーバの管理者にお尋ねください。

〈ご参考に〉

認証方式は、下記の画面で選択できます。

■接続の手順(つづき)

4.接続されると画面を表示します。

■アクセスポイントを切り替えるには

下記の操作をして表示された画面から、別の名前(例：ap50w)を指定してください。

※次回起動時、順番(例：ap50w→LG)に検索して、電波状況の良い無線アクセスポイントに接続します。

■次回起動時の接続について

前回選択した無線アクセスポイント(例：LG)を検索して優先的に接続されます。

※無線通信チャンネルは、自動的に無線アクセスポイントのチャンネルになります。

■「WPA2」/「WPA2-PSK」暗号化方式を使用するには　(2006年10月現在)

◎WPA2対応修正プログラムをWindows XP(Service Pack2)に適用していただく必要があります。

WPA2対応修正プログラムは、Windows Updateから適用されません。

マイクロソフト　サポート技術情報からダウンロードして適用してください。

◎Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続をご使用ください。

(☞4-1章)

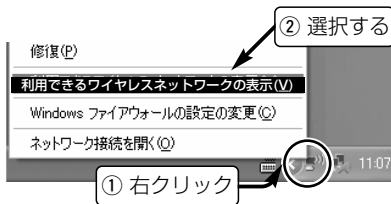
◎「WPA2-PSK」に対応する無線アクセスポイントが必要です。

4

4-2.自動検索の候補を追加するには

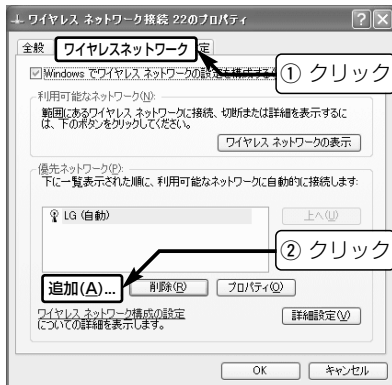
ワイヤレスネットワーク接続のとき、自動検索される無線アクセスポイントを[優先ネットワーク(P)]項目に手動で追加する手順です。

■追加する手順

1.[利用できるワイヤレスネットワークの表示(V)]を選択します。

2.「優先ネットワークの順位変更」をクリックします。

■追加する手順(つづき)

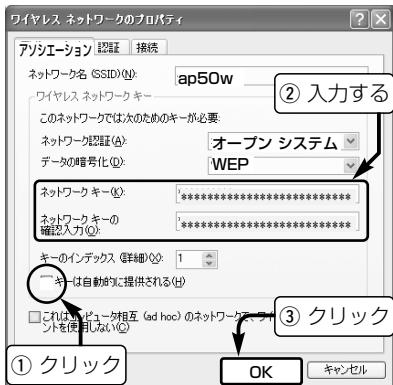
3.[ワイヤレスネットワーク]タブをクリックします。

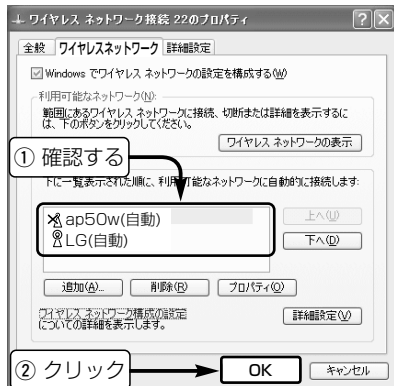
4.〈追加(A)...〉をクリックします。

5.[SSID]を入力します。

[ネットワーク名(SSID)(N):]欄に半角で入力します。　(入力例：ap50w)

※[ESS ID]と表記されている無線アクセスポイントもありますが、同じ意味です。

4-2.自動検索の候補を追加するには(■ 追加する手順)つづき

6.〈OK〉をクリックします。

※上記は、暗号化する場合の手順です。
暗号化の詳細は、本書37～39ページをご覧ください。

7.追加を確認して、〈OK〉をクリックします。

※追加した名前(例：ap50w)のアイコンに表示される「×(赤色)」印は、その無線アクセスポイントに接続されると消えます。

■ 認証方式および暗号化方式の設定について

従来の無線LAN機器に搭載の｢WEP(RC4)｣暗号化方式に加え、｢WPA/WPA2｣、｢WPA-PSK/WPA2-PSK｣認証方式の暗号化(TKIP/AES)に対応しています。

※弊社製無線LAN機器に搭載の｢OCB AES｣は、設定ユーティリティー(☞4-3章)で設定できます。

1.認証方式を選択します。

【ネットワーク認証(A)】

- **オープン システム**(出荷時の設定)
  暗号鍵(キー)の有無に関係なく認証する方式です。
- **共有キー**
  通信相手と共通の暗号鍵を持っているかどうかを認証する方式です。
- **WPA/WPA2**
  (Wi-Fi Protected Access)
  ご使用のRADIUSサーバを利用して、IEEE802.1X認証します。
- **WPA-PSK/WPA2-PSK**
  (Pre-Shared Key)
  RADIUSサーバを使用しない簡易的な方法で、通信相手と共通の暗号鍵を持っているかどうかの認証をします。

4-2.自動検索の候補を追加するには

■認証方式および暗号化方式の設定について(つづき)

2.暗号化方式を選択します。

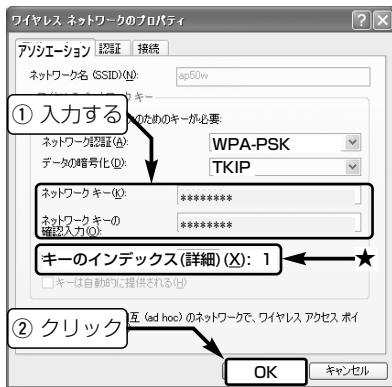
※暗号化方式が同じでも、通信相手と認証方式の設定が異なる場合は、通信できません。

【データの暗号化(D)】

[ネットワーク認証(A)]の設定に応じて、選択できる暗号化方式が異なります。

- **無効**
  「オープン システム」/「共有キー」認証方式で、RC4方式の暗号化をしません。
- **WEP**(出荷時の設定)
  「オープン システム」/「共有キー」認証方式で、RC4方式の暗号化をします。
- **TKIP**(Temporal Key Integrity Protocol)
  「WPA-PSK」/「WPA2-PSK」認証方式で、TKIP方式の暗号化をします。
  ※「WEP」より強力です。
- **AES**(Advanced Encryption Standard)
  「WPA-PSK」/「WPA2-PSK」認証方式で、AES方式の暗号化をします。
  ※暗号化の強化および暗号鍵(キー)を一定時間間隔で自動更新することで、「TKIP」より強力です。

■ 認証方式および暗号化方式の設定について(つづき)

3.ネットワークキーを入力します。
4.〈OK〉をクリックします。

※[ネットワークキー(K):](暗号鍵)の入力は、無線アクセスポイントと同じ内容にします。

【ネットワークキー(K)/ネットワークキーの確認入力(O)】

認証方式の設定によって、暗号鍵の文字数が異なり、入力した文字数によって、入力モード(16進数/ASCII)を自動判別します。

- 「オープン システム」/「共有キー」選択時
  10または26桁 ：16進数モード
  5または13文字：ASCIIモード
- 「WPA」/「WPA2」選択時
  入力は不要です。
- 「WPA-PSK」/「WPA2-PSK」選択時
  64桁 ：16進数モード
  8〜63文字 ：ASCIIモード

★[キーのインデックス(詳細)(X)]

「WEP」暗号化(☞P38)のとき設定でき、弊社製無線LAN機器の[キー ID]設定欄と同じ意味として使用されています。

4

4-3.設定ユーティリティーを使用する

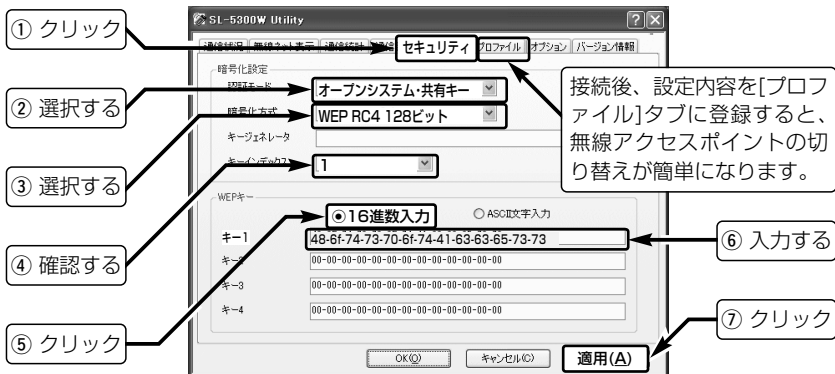
本製品の設定ユーティリティーを使用して、無線アクセスポイントと通信する手順です。

Windows XPを本製品の設定にご使用の場合は、設定を変更してください。(☞3-3章)

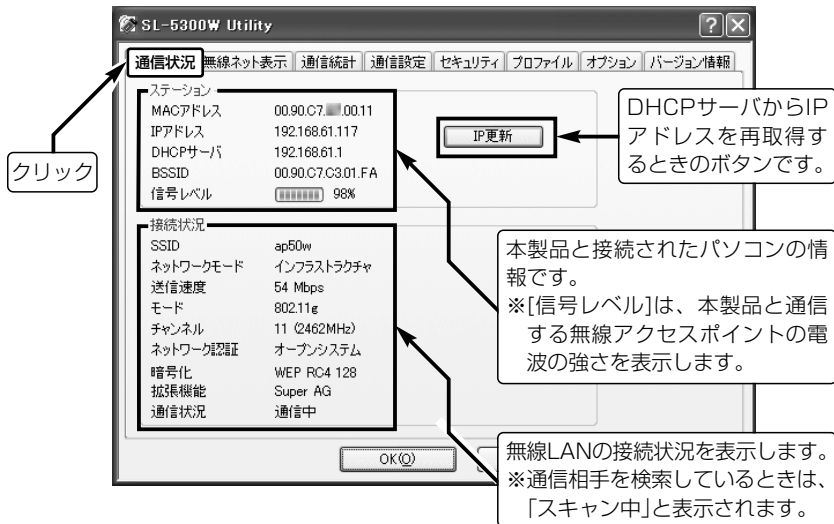
■接続の手順

1.設定ユーティリティーの「モニター」画面(☞P26)を表示させます。

2.通信が暗号化されている場合は、無線アクセスポイントと同じ鍵(キー)を入力します。

※2006年10月現在、「TKIP」、「AES」暗号化方式の設定には対応していません。

■ 接続の手順(つづき)

3.[通信状況]タブをクリックして、無線アクセスポイントとの通信を確認します。

4

4-3.設定ユーティリティーを使用する

■ 次回起動時の接続について

複数の無線アクセスポイントがあるときは、自動的に通信環境の良い方に接続されます。

■ アクセスポイントを切り替えるには

[無線ネット表示]タブに表示された別の無線アクセスポイントをダブルクリックします。

※本製品と暗号鍵(キー)が異なる無線アクセスポイントには切り替えできません。

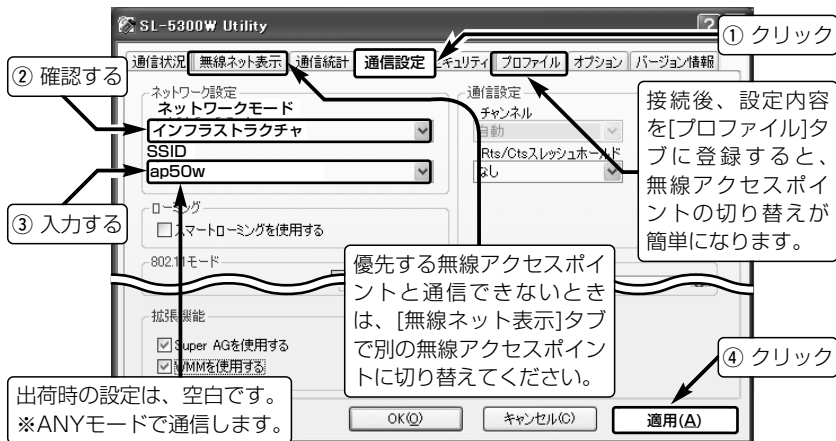
※説明のため、一部、実際とは表示が異なります。

■起動時の優先接続設定について

本製品に設定された[SSID]と同じ無線アクセスポイントに接続を優先します。

1.[通信設定]タブをクリックして、[SSID]を半角で入力します。　(例：ap50w)

2.暗号化が必要な場合は、[セキュリティ]タブで暗号化を設定します。

3. 〈適用(A)〉、または〈OK〉をクリックします。

5 パソコン同士で無線通信する

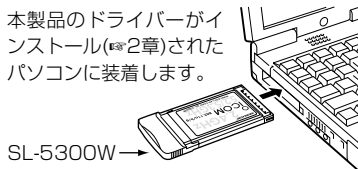
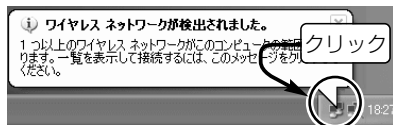
5-1.ワイヤレスネットワーク接続を使用する

Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続(以後、ワイヤレスネットワーク接続と表記)を使用して、相手のパソコンと直接通信する手順について説明します。

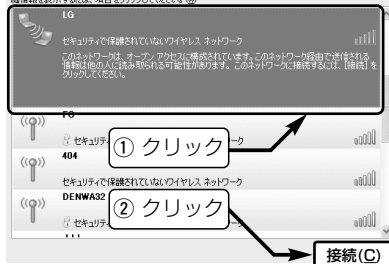
※この章では、Windows XP(Service Pack2)を例に説明しています。

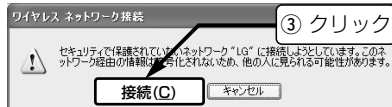
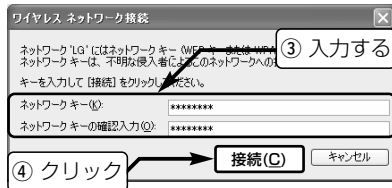
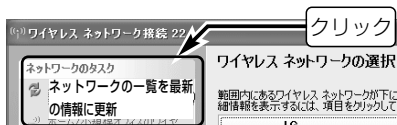
■接続の手順

1.SL-5300Wを装着します。

本製品のドライバーがインストール(☞2章)されたパソコンに装着します。

2.[ネットワーク]アイコンをクリックします。

※無線LANの電波が検出できない環境では、上記のメッセージは表示されず、「×」マークを[ネットワーク]アイコンに表示します。状況によっては、しばらくしてから無線LANが検出される場合があります。

■接続の手順(つづき)

3.無線LAN端末を選択します。

〈ご参考に：最新の情報に更新するには〉

【暗号化されていないネットワークの場合】

【暗号鍵(キー)が必要な場合】

③暗号鍵(キー)を入力します。
　※暗号化方式は、自動判別されます。
④〈接続(C)〉をクリックします。

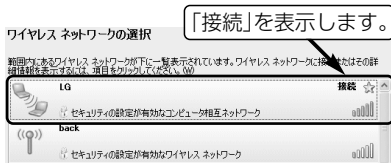
5

5-1.ワイヤレスネットワーク接続を使用する

■接続の手順(つづき)

〈ご参考に〉

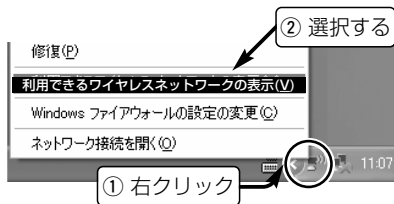
「接続」と表示されますが、IPアドレスやワークグループなどを設定していない場合、通信できません。

※5-2章〜5-3章、6-3章〜6-4章を参考に設定してください。

■次回起動時の接続について

前回通信した無線LAN端末(例：LG)を検索して優先的に接続されます。

■通信相手を切り替えるには

下記の操作をして表示された画面から、別の名前(例：sl5300w)を指定して、接続操作をします。

※次回起動時、順番(例：sl5300w→LG)に検索して、電波状況の良い無線LAN端末に接続します。

5-2.IPアドレスを設定する

｢アドホック｣モードでパソコン同士が無線通信をするには、本製品を装着したパソコンに固定IPアドレスの設定が必要です。

※本書では、Windows XPを例に説明しています。(☞そのほかのOSは補足説明書を参照)

■ IPアドレスの設定について

IPアドレスを設定するときは、下記のことを注意してください。

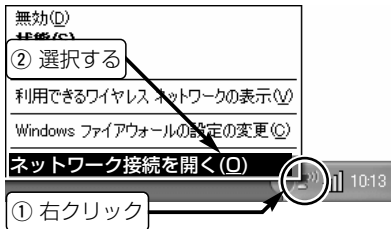
- 同一ネットワークグループ内におけるすべてのパソコンのIPアドレスは、重複しないように設定してください。
- 同一ネットワークグループ内におけるすべてのパソコンのサブネットマスクは、同じ値を設定してください。
- 小規模なネットワーク(254台まで)でご使用になる場合は、プライベートアドレスとして192.168.0.0～192.168.255.255を使用します。
  なお、192.168.×××.0(ネットワークアドレス)と192.168.×××.255(ブロードキャストアドレス)は、特別なアドレスとして扱われますので､パソコンには割り当てないでください。(×××：0～255)

3台のパソコンで無線LANを構成するときは、以下のようになります。

パソコンA：192.168.0.10(サブネットマスク：255.255.255.0)
パソコンB：192.168.0.11(サブネットマスク：255.255.255.0)
パソコンC：192.168.0.12(サブネットマスク：255.255.255.0)

5-2.IPアドレスを設定する(つづき)

■設定の手順

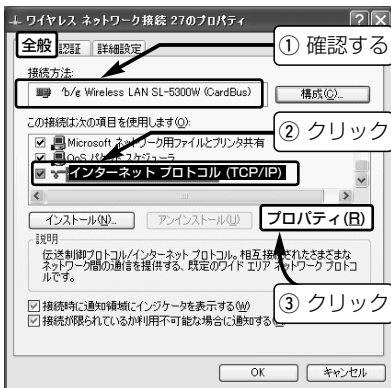
1.[ネットワーク接続を開く(O)]を選択します。

※[ネットワーク]アイコンの「×」マークは、無線LANの電波が検出できない環境で表示されます。

2.本製品の名称が表示された[ワイヤレスネットワーク接続]アイコンを右クリックして、表示されるメニューから[プロパティ(R)]をクリックします。

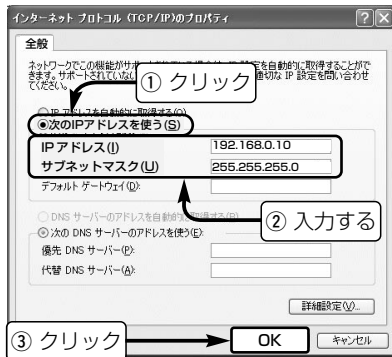
■設定の手順(つづき)

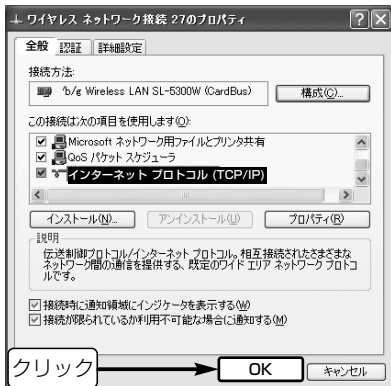
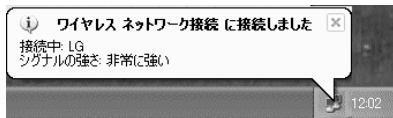
3.本製品の名称が表示されていることを確認します。

4.「インターネットプロトコル(TCP/IP)」をクリックします。

5.〈プロパティ(R)〉をクリックします。

6.[次のIPアドレスを使う(S)]のラジオボタンをクリックして、チェックマークを入れます。

7.[IPアドレス(I)]と[サブネットマスク(U)]を入力(☞P47)して、〈OK〉をクリックします。

5

5-2.IPアドレスを設定する(■ 設定の手順)つづき

8.手順5.の画面が表示されますので、〈OK〉をクリックします。

9.設定すると、画面が表示されます。

〈ご参考に〉

◎相手の無線LAN端末との通信は、[通信状況]タブ(☞P59)のほかに、コマンドプロンプトからpingコマンド(☞6-6章)を実行することでも確認できます。

◎「コンピューター名」と「ワークグループ」の設定や「共有フォルダー」の設定については、本書6-3章〜6-4章をご覧ください。

5-3.自動検索の候補を追加するには

ワイヤレスネットワーク接続のとき、自動検索される無線LAN端末を[優先ネットワーク(P)]項目に手動で追加する手順です。

■追加する手順

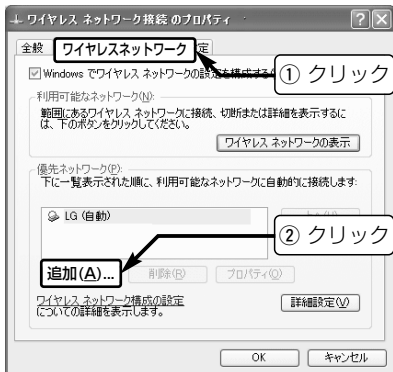
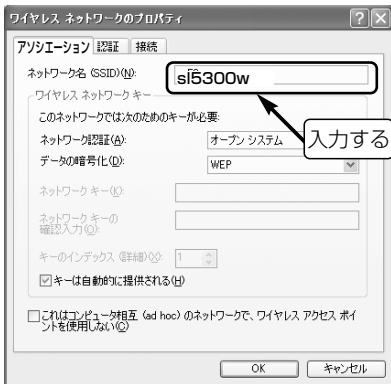
1.[利用できるワイヤレスネットワークの表示(V)]を選択します。

※無線LANの電波が検出できない環境では、上記のメッセージは表示されず、「×」マークを[ネットワーク]アイコンに表示します。

2.「優先ネットワークの順位変更」をクリックします。

5-3.自動検索の候補を追加するには(■ 追加する手順)つづき

3.[ワイヤレスネットワーク]タブをクリックします。

4.〈追加(A)...〉をクリックします。

5.[SSID]を入力します。

[ネットワーク名(SSID)(N):]欄に半角で入力します。 (入力例：sl5300w)

※[ESS ID]と表記されている無線アクセスポイントもありますが、同じ意味です。

■追加する手順(つづき)

6.無線通信モードを「アドホック」に設定します。

ワイヤレス ネットワークのプロパティ
アソシエーション　認証　接続
ネットワーク名 (SSID)(N): sl5300w
ワイヤレス ネットワーク キー
このネットワークでは次のためのキーが必要:
ネットワーク認証(A): オープン システム
データの暗号化(D): WEP
ネットワーク キー(K):
キーのインデックス (詳細)(X): 1
キーは自動的に提供される(H)
これはコンピュータ相互 (ad hoc) のネットワークで、ワイヤレス アクセス ポイントを使用しない(C)
OK　キャンセル
クリック

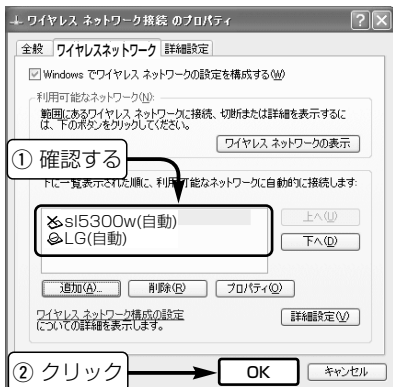
※チェックマークを入れると、「アドホック」モードになります。

7.〈OK〉をクリックします。

※上記は、暗号化する場合の手順です。
暗号化の詳細は、本書55～56ページをご覧ください。

5

5-3.自動検索の候補を追加するには(■ 追加する手順)つづき

8.追加を確認して、〈OK〉をクリックします。

※追加した名前(例：sl5300w)のアイコンに表示される「×(赤色)」印は、その無線LAN端末に接続されると消えます。

■暗号化方式の設定について

従来の無線LAN機器に搭載の「WEP(RC4)」暗号化方式だけに対応しています。

※弊社製無線LAN機器に搭載の「OCB AES」は、設定ユーティリティー(☞5-4章)で設定できます。

※無線通信チャンネルは、自動的に相手のチャンネルになりますので設定不要です。

1.暗号化方式を選択します。

【データの暗号化(D)】

「アドホック」モードでは、下記の暗号化方式が選択できます。

●無効

WEP(RC4)方式の暗号化をしません。

●WEP(出荷時の設定)

WEP(RC4)方式の暗号化をします。

5-3.自動検索の候補を追加するには(■ 暗号化方式の設定について)つづき

2.ネットワーク キーを入力します。
3.〈OK〉をクリックします。

【ネットワーク キー(K)/ネットワーク キーの確認入力(O)】

入力する文字数によって、入力モード(16進数/ASCII)を自動判別します。

- 10または26桁 ：16進数モード
- 5または13文字：ASCIIモード

※[ネットワークキー(K):](暗号鍵)の入力は、無線LAN端末と同じ内容にします。

5-4.設定ユーティリティーを使用する

本製品の設定ユーティリティーを使用して、相手のパソコンと直接通信する手順です。

Windows XPを本製品の設定にご使用の場合は、設定を変更してください。(☞3-3章)

■接続の手順

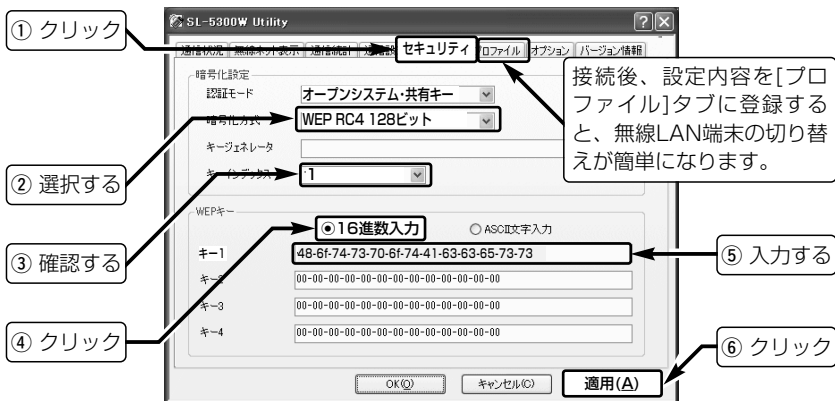
1.設定ユーティリティーの「モニター」画面(☞P26)を表示させます。

2.[通信設定]タブをクリックして、下記の例を参考に設定します。

5

5-4.設定ユーティリティーを使用する(■ 接続の手順)つづき

3.通信が暗号化されている場合は、無線LAN端末と同じ鍵(キー)を入力します。

※2006年10月現在、「TKIP」、「AES」暗号化方式の設定には対応していません。

■接続の手順(つづき)

4.[通信状況]タブをクリックして、通信状態を確認します。
※相手との通信を確認するには、Pingコマンド(☞6-6章)をご使用ください。

5-4.設定ユーティリティーを使用する(つづき)

■ **次回起動時の接続について**

本製品に設定された[SSID]や暗号鍵(キー)と同じパソコンに接続を優先します。

■ **通信相手を切り替えるには**

[無線ネット表示]タブに表示された別の無線LAN端末をダブルクリックします。
※[SSID]や暗号鍵(キー)が異なる無線LAN端末には切り替えできません。

※説明のため、一部、実際とは表示が異なります。

6-1.本製品の取りはずしかた

パソコンを使用中、本製品を取りはずす場合の手順について説明します。
下記の操作をする前に、通信相手と送受信していないことを確認してください。
※本製品をPCカードスロットに装着しなおすと、再び使用できます。

■取りはずすときの手順

1.「ハードウェア取り外し」アイコン→「Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5300W(CardBus)」の順にクリックします。

[Windows XP]

Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5300W (CardBus) を安全に取り外します

Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5300W (CardBus)を安全に取り外します

[Windows Me/Windows 2000]

Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5300W (CardBus) の停止

Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5300W (CardBus)の停止

[Windows 98 Second Edition]

Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5300W (CardBus) の中止

Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5300W (CardBus)の停止

2.[Windows XP]は、表示を確認します。

[Windows Me/Windows 2000]

[Windows 98 Second Edition]

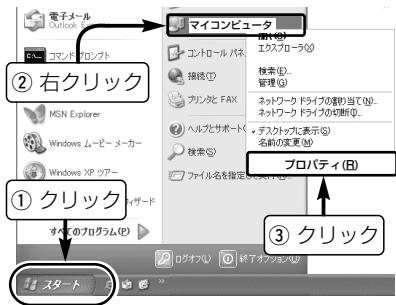
6-2.本製品のインストール状態を確認する

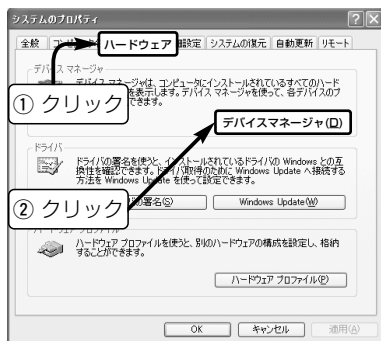
Windows XPを例に、本製品のドライバーが正常にインストールされていることを確認する手順を説明します。

※確認のときは、本製品をパソコンのPCカードスロットに装着してください。

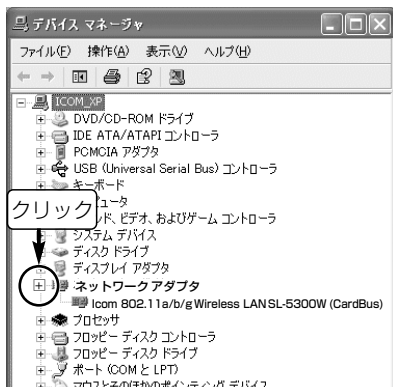
■確認の手順

1.マウスを〈スタート〉→[マイコンピュータ](右クリック)→「プロパティ(R)」の順にクリックします。

- 「システムのプロパティ」を表示します。

2.[ハードウェア]タブ→〈デバイス マネージャ(D)〉の順にクリックします。

- 「デバイス マネージャ」を表示します。

■確認の手順(つづき)

3.「ネットワークアダプタ」の⊞をクリックします。

- 正しくインストールされている場合は、「Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5300W(CardBus)」を、下記のように表示します。

※左下の画面で「Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5300W(CardBus)」のアイコンに「!」や「×」マークがついている、または「?その他のデバイス」項目に「Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5300W(CardBus)」が表示されるときは、ドライバーを再インストールしてください。

【ドライバーの再インストールについて】

PCカードスロットから本製品を取りはずした状態で再インストールしてください。新規インストールの手順(☞2章)にしたがってウィザードを実行すると、途中でアンインストールウィザードを表示します。アンインストール操作に続き、インストールウィザードでインストールをつづけてください。

6

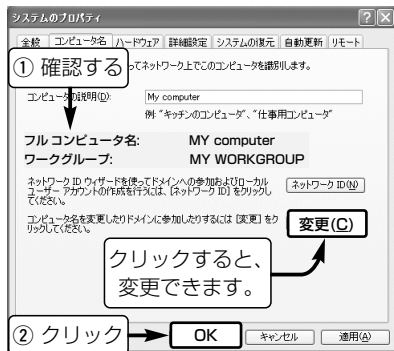
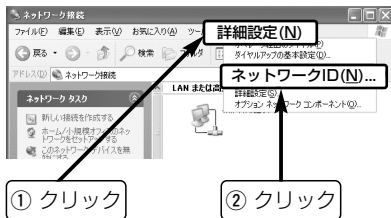
6-3. 「フル コンピュータ名」と「ワークグループ」の設定

※本書では、Windows XPを例に説明しています。(☞そのほかのOSは、補足説明書を参照)

■設定の手順

1.本書48ページの手順で、「ネットワーク接続」画面を開きます。

2.「詳細設定(N)」から[ネットワークID(N)...]をクリックします。

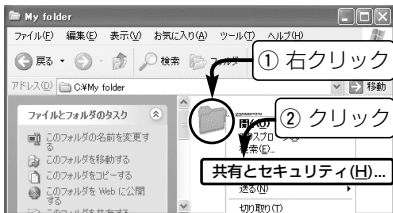
3.[フル コンピュータ名:]と[ワークグループ:]の変更が必要な場合は、〈変更(C)〉をクリックすると変更できます。
※半角英数字で入力します。

6-4.「共有フォルダー」の設定

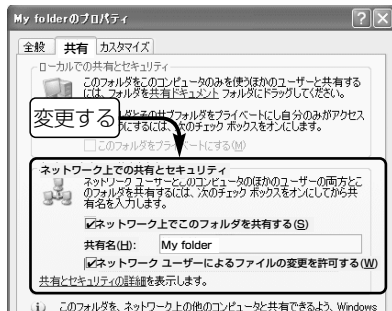
自分のパソコンのドライブ、またはフォルダーを相手先に公開するには共有フォルダーの設定が必要です。

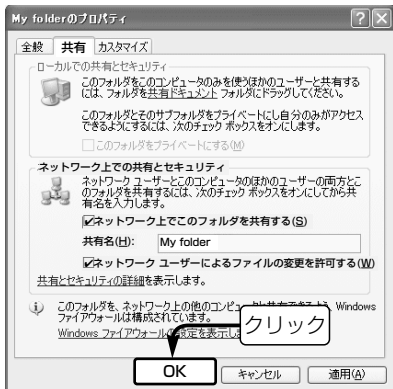
※本書では、Windows XPを例に説明しています。(☞そのほかのOSは補足説明書を参照)

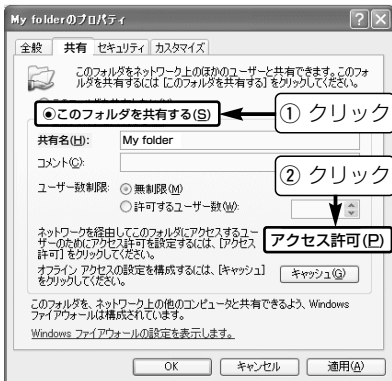
■ **設定の手順**

1.[マイコンピュータ]アイコンなどから、共有したいフォルダーのあるウィンドウを開きます。

2.共有したいフォルダー上にカーソルを移動して右クリックします。
表示されたメニューから[共有とセキュリティ(H)...]をクリックします。

3.[ネットワーク上での共有とセキュリティ]の設定内容を変更します。
- 共有設定したフォルダーには、共有を示すアイコンが表示されます。

6

6-4.「共有フォルダー」の設定(■ 設定の手順)つづき

4. 〈OK〉をクリックします。

〈ご参考に〉
手順3.の画面は、「簡易共有」に設定されている画面のため、共有するフォルダーのアクセス許可を特定のユーザーに限定できません。

〈ご参考に〉(つづき)
共有を特定のユーザーに限定する場合は、「フォルダ オプション」の[表示]タブで、「簡易ファイルの共有を使用する(推奨)」のチェックマークをはずしてください。
下記は、そのときの設定画面です。

6-5.本製品のアンインストール

本製品(ドライバーまたは設定ユーティリティー)をアンインストールする手順について、Windows XPを例に説明します。
設定ユーティリティーが起動中の場合は、終了してからアンインストールしてください。
※アンインストールの手順は同じため、本製品のドライバーを例に説明します。

■操作の手順

1.マウスを〈スタート〉→[コントロールパネル(C)]の順に操作します。

2.コントロールパネルから、[プログラムの追加と削除]をクリックします。

3.「Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5300W Driver」→〈変更と削除〉の順にクリックします。

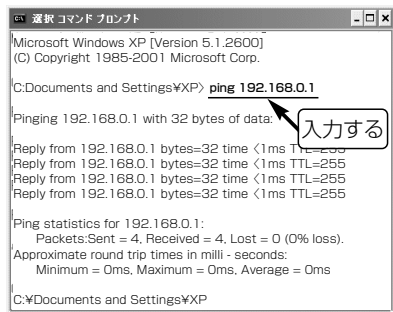
4.〈アンインストール(U)〉をクリックして、表示される画面にしたがいます。

5.本製品がパソコンに装着されている場合は、取りはずします。

6-6.Pingコマンドで接続を確認する

IPパケットが通信先に正しく届いているかを、次の操作で確認できます。
Windows XPを例に、以下の操作手順を説明します。

■確認の手順

1. マウスを〈スタート〉→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンド プロンプト]の順に操作します。
2. キーボードからPingコマンドを入力して、[Enter]キーを押します。
   ※「192.168.0.1」を相手先のIPアドレスとすると、下記のようになります。
   ping 192.168.0.1と入力して、[Enter]キーを押します。
3. 接続が正常なときは、右の画面のような結果を表示します。

※画面中に表示される数値については、ご使用のネットワーク環境によって異なります。

6-7.困ったときは?

下記のような症状でお困りの場合の対処方法について説明しています。

〈症状〉ドライバー/設定ユーティリティーをWindows XP/Windows 2000にインストールできない

〈原　因〉OSを管理者(administrator)権限でログオンしていない
対処：OSを管理者のユーザー名でログオンしなおす

〈症状〉ドライバーが正しくインストールできない

〈原因1〉「Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5300W(CardBus)」のアイコンに「!」や「×」マークがついている、または「?その他のデバイス」項目に「Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5300W(CardBus)」を表示する
(☞6-2章)
対処：本製品のドライバーを再インストールする(☞2章)

〈原因2〉Windows 98 SE/Meをご使用の場合、「システムのプロパティ」画面の[デバイスマネージャ]タブの中にある[ネットワークアダプタ]項目に、本製品以外のデバイス名が6個表示されている
対処：本製品を含め、インストールしているデバイスの数を6個以下にする。

6-7.困ったときは?(つづき)

〈症状〉本製品を装着してもランプが点灯しない

〈原因1〉 PCカードアダプターが機能していない

対処：PCカードアダプターが正常に動作していることを確認(☞1-3章)する

〈原因2〉 本製品のドライバーが正しくインストールされていない

対処：ドライバーのインストール状態を確認(☞6-2章)する

〈症状〉ワイヤレスネットワーク接続を使用できない

〈原因1〉 Windows XP以外の対応OSで、本製品を使用している

対処：Windows XPがインストールされたパソコンを利用する

〈原因2〉 設定ユーティリティーの[オプション]タブで、[ゼロコンフィグを使用する]項目を「いいえ」に設定している(☞3-3章)

対処：「はい」に変更してから、本製品を装着しなおす。

6-7.困ったときは?(つづき)

〈症状〉設定ユーティリティーを使用できない

〈原因1〉 無線LANカード(本製品)が装着されていない

対処：パソコンに正しく装着されていることを確認する

〈原因2〉 Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続を「有効」に設定している

対処：「無効」に設定して、設定ユーティリティーを起動しなおす

〈症状〉ワイヤレスネットワーク接続の通信開始に時間がかかる

〈原　因〉 暗号鍵(キー)の設定を途中で変更した

対処：下記の操作をしてから接続しなおす

◎パソコンを再起動する

◎無線LANカード(本製品)を装着しなおす

◎OSのデバイスマネージャで、無線LANカードを「無効」に設定後、「有効」に戻す

6-7.困ったときは?(つづき)

〈症状〉無線アクセスポイントと通信できない

〈原因1〉 無線アクセスポイントからパソコンのIPアドレスを取得できていない

対処： 無線アクセスポイントが使用できる状態であるかを確認して、本製品が装着されたパソコンを再起動する

〈原因2〉 無線アクセスポイントのDHCPサーバ機能が無効に設定されている

対処： 無線アクセスポイントのDHCPサーバ機能を有効に設定する

〈原因3〉 無線LANカードのIPアドレスを固定に変更している

対処： 無線LANカードのIPアドレスを「自動的に取得」に設定する

〈原因4〉 「アドホック」モードで通信している

対処： 無線通信モードを「インフラストラクチャ」に設定する

〈原因5〉 本製品に設定した[SSID]と異なる無線アクセスポイントしか存在しない

対処： [SSID]の設定を現状の無線アクセスポイントに変更するか、ワイヤレスネットワーク接続または設定ユーティリティーを使用して接続を切り替える

6-7.困ったときは?(つづき)

〈症状〉無線アクセスポイントと通信できない(つづき)

〈原因6〉 設定ユーティリティーを使用して、「TKIP」、「AES」の暗号化が設定された無線アクセスポイントに接続操作をした

対処：Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続を使用する

〈原因7〉 無線アクセスポイント側でMACアドレスフィルタリング(もしくは、MACアドレスセキュリティー)が設定されている

対処：無線アクセスポイント側に本製品のMACアドレスを登録する

〈原因8〉 無線アクセスポイントと本製品の認証モードが異なっている

対処：本製品の「設定ユーティリティー」(☞4-3章)を使用して、[認証モード]の設定を「オープンシステム·共有キー」にする、またはWindows XP標準のワイヤレスネットワーク接続を使用して、[ネットワーク認証(A)]の設定(☞P37)を「オープン システム」/「共有キー」にする

6-7.困ったときは?

〈症状〉無線アクセスポイントと通信できない(つづき)

〈原因9〉 無線アクセスポイントと本製品の暗号化方式が異なっている

対処:暗号化方式と暗号鍵(キー)を同じ設定にする

〈原因10〉 暗号鍵(キー)の設定を間違えている

対処:無線アクセスポイントと本製品の暗号鍵(キー)、WEP(RC4)の場合は、[キーインデックス]の設定も併せて確認する

〈原因11〉 ローミング環境において、本製品と通信している無線アクセスポイントの[SSID]だけを変更した

対処:下記の操作をしてから接続しなおす

◎パソコンを再起動する

◎無線LANカード(本製品)を装着しなおす

◎OSのデバイスマネージャで、無線LANカードを「無効」に設定後、「有効」に戻す

6-7.困ったときは?(つづき)

〈症状〉「アドホック」モードでパソコン同士が無線通信できない

〈原因1〉 本製品のIPアドレスを「自動的に取得」に設定している
対処：本製品のIPアドレスを固定(☞5-2章)で割り当てる

〈原因2〉「インフラストラクチャ」モードで通信している
対処：無線通信モードを「アドホック」に設定する

〈原因3〉 [SSID]の設定が通信するほかのパソコンと異なる
対処：[SSID]の設定をほかのパソコンと同じに変更する

〈原因4〉 相手の無線LAN端末と暗号化方式が異なっている
対処：暗号化方式を同じ設定にする
※「WEP(RC4)」は、相手と同じビット数に設定します。

〈症状〉ファイル共有できない

〈原因1〉 共有フォルダーを自分、または通信相手のパソコンに設定していない
対処：本書6-3章〜6-4章を参考に設定してください。

〈原因2〉 [Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有]のチェックボックスにチェックマークが入っていない
対処：本書50ページの手順8.の画面を参考に設定を確認してください。
Windows 98 SEやWindows Meの場合は、「Microsoft ネットワーク共有サービス」が表示されていることを確認してください。

6-8.定格

■無線部

- 国　際　規　格：IEEE 802.11a※準拠、IEEE 802.11b/g準拠、
  ※[IEEE802.11a]規格は、J52/W52/W53に対応しています。
  また、「アドホック」モードでの使用は、W52に限定されます。
- 国　内　規　格：ARIB STD-T71(IEEE802.11a規格)
  ARIB STD-T66(IEEE802.11b/g規格)
- 通　信　方　式：単信方式
- 伝　送　方　式：直交周波数分割多重方式(OFDM)[IEEE802.11a/g規格]
  直接スペクトラム拡散(DSSS)[IEEE802.11b規格]
- 変　調　方　式：[IEEE802.11a/g]規格
  OFDM-BPSK、QPSK、16QAM、64QAM
  [IEEE802.11b]規格
  DBPSK、DQPSK、CCK
- 使用周波数範囲：5170～5320MHz(IEEE802.11a規格)
  2412～2472MHz(IEEE802.11b/g規格)

※ 定格・仕様・外観等は改良のため予告なく変更する場合があります。

■無線部(つづき)

●チャンネル数：[IEEE802.11a]規格
全12ch(34ch★、36ch、38ch★、40ch、42ch★、44ch、46ch★、48ch、52ch★、56ch★、60ch★、64ch★)
★インフラストラクチャ」モードでの使用は、パッシブスキャンによる接続に限定されます。
また、「アドホック」モードでは使用できません。
[IEEE802.11b/g]規格
全13ch(1ch～13ch)

●通信速度：[IEEE802.11a/g]規格
自動、54/48/36/24/18/12/9/6Mbps
[IEEE802.11b]規格
自動、11/5.5/2/1Mbps

●最大伝送距離：[IEEE802.11a]規格(54Mbps通信時)
約30m(室内：見通し)★★
★★電波法により、屋内使用に限定されます。
[IEEE802.11g]規格(54Mbps通信時)
約30m(室内：見通し/オープンスペース)
[IEEE802.11b]規格(11Mbps通信時)
約30m(室内：見通し)、約70m(オープンスペース)

※ 伝送距離は、通信速度や環境によって異なります。

6-8.定格(■ 無線部)つづき

●**送　信　出　力**：10mW/MHz以下
●**受　信　感　度**：[IEEE802.11a/g]規格
　−68dBm以下(フレームエラーレート=10%)
　[IEEE802.11b]規格
　−85dBm以下(フレームエラーレート=8%)
●**復　調　方　式**：[IEEE802.11a/g]規格
　OFDM復調
　[IEEE802.11b]規格
　デジタル復調(マッチドフィルター方式)

■ **暗号化方式対応表**(※設定ユーティリティーを使用した場合)

OCB AES	AES		WEP(RC4)		
128bit	128bit	256bit	64bit	128bit	152bit
○	×	×	○	○	○

※WPA認証方式の暗号化(TKIP、AES)を使用する場合は、Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続(☞4-1章)で設定できます。

6-8.定格(つづき)

■一般仕様

- 入力電圧：DC3.3V±10%
- 消費電流：550mA(最大)
- 使用環境：温度 0～+55℃(結露状態を除く)
- 保存環境：温度 −10～+70℃(結露状態を除く)
- 重量：約38g(付属品を除く)
- 外形寸法：117.38(W)×7(H)×53.1(D)mm(突起物を除く)
- アンテナ：デュアルバンドダイバーシティー
- インターフェイス：CardBus TypeⅡ、状態表示ランプ(POWER、LINK)
- 対応OS：Microsoft® Windows® XP Professional
  Microsoft® Windows® XP Home Edition
  Microsoft® Windows® 2000 Professiona
  Microsoft® Windows® Millennium Edition
  Microsoft® Windows® 98 Second Edition

※ 定格・仕様・外観等は改良のため予告なく変更する場合があります。

6-9.故障のときは

● **保証書について**

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● **修理を依頼されるとき**

取扱説明書にしたがって、もう一度、本製品とパソコンの設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

■弊社製品のお問い合わせ先について

- お買い上げいただきました弊社製品の技術サポートなどご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

連絡先：アイコム株式会社
サポートセンター　06-6792-4949
(平日 9:00〜12:00、13:00〜17:00)
電子メール：support_center@icom.co.jp
アイコムホームページ：http://www.icom.co.jp/

- 弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、下記の弊社各営業所カスタマーサービス担当にお問い合わせください。

北海道営業所	003-0806	札幌市白石区菊水6条2-2-7	TEL 011-820-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	103-0007	東京都中央区日本橋浜町3-42-3	TEL 03-5847-0722
		カスタマーサービス	TEL 03-5847-0724
名古屋営業所	468-0066	名古屋市天白区元八事3-249	TEL 052-832-2525
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211